

# 研究者の横顔

フリガナ

ヒロノ セイコ

お名前

廣野 誠子

助成金額

50 万円

ご所属

兵庫医科大学 消化器外科学講座肝胆膵外科

研究テーマ

術後合併症予防・長期生存を目指した膵癌集学的治療中新規サポータティブケアの開発

## 1：研究者になろうとしたきっかけ

私が医師になった頃から、膵癌の罹患率は右肩上がりに上昇していますが、その生存期間は極めて不良です。膵癌の根治可能な唯一の治療法は外科的切除のみですが、膵癌の手術は高難度・高侵襲手術のため、合併症の頻度が高く、私はまずより安全な膵癌手術を目指した臨床研究に取り組み、手術手技の向上と術後管理の改善により、膵癌手術による合併症頻度は低下しました。しかしながら、膵癌を切除しても、高頻度に再発し、予後不良のため、膵癌の新規治療の開発を目指し、トランスレーショナルリサーチや臨床研究に取り組んできました。膵癌患者さんの生存期間は、私が研修医の頃に比べて改善傾向ですが、まだまだ不良ですので、現在も膵癌患者さんの長期生存を目指した研究にチャレンジし続けております。

## 2：助成研究の内容紹介

膵癌の根治可能な治療は、術前化学(放射線)療法後、外科的切除を行い、術後補助療法を完遂する必要がありますが、長期の治療期間を要します。膵癌に対する治療期間中に患者さんの体力や免疫力が減弱し、サルコペニアの発症・増悪が生じることで治療の中断や治療効果の低下が生じるという悪循環になることがしばしばあります。本研究では、膵癌に対する集学的治療中の長期間、運動療法とシンバイオティクスによるサポータティブケアを併用することで、患者さんの体力・免疫力の増強をはかり、膵癌治療を完遂することで長期生存を目指すことを目的としています。

## 3：2の将来に繋がる結果予想・目標

本研究は、難治癌である膵癌に対する術前化学(放射線)治療期間、周術期、術後補助療法期間の長期集学的治療中に運動療法とシンバイオティクスのサポータティブケアを併用することで、患者さんの体力と免疫力を増強し、術後合併症を低下、治療効果を上昇させることを目的としています。本研究が遂行できれば、膵癌治療における新規サポータティブケアを提唱し、膵癌患者さんの長期生存に貢献できることを期待しています。

## 4：全国のRFL関係者に一言メッセージ

難治癌である膵癌に対して多くの研究が世界中で行われ、効果的な新規治療の開発がなされています。しかしながら、膵癌の根治は極めて難しく、未だ予後不良な癌腫です。今後、さらなる効果的な治療の開発に貢献できる研究に携わりたい一方で、高侵襲な治療に耐えていただく新たなサポータティブケアの開発にも取り組んでいき、膵癌治療に関する新たなエビデンスを日本から発症することに邁進いたします。